

『仮想国家の建設 米国に見る情報技術と行政制度の変容』

電子政府は実現されたのか
情報通信技術はいかにして制度変革のパワーをもつか

園田 寿(甲南大学 法科大学院教授、弁護士)



ジェーン・E. ファウンテン 著
奥村 裕一 訳
ISBN : 4-901253-64-6
定価 : 本体 2,800 円 + 税
一藝社

ネットワーク・コンピューティングの特性とは何か。それがアメリカ政府内部で、どのように利用されてきたのか。この十数年の電子政府をめぐるドラスティックな変革は、伝統的な官僚組織に対してどのような変化をもたらしたのか。

高度に専門的で、複雑化し、かつ自律的であり続けてきたアメリカの各政府機関ではあるが、90年代以降、クリントン政権とブッシュ政権がインターネットとウェブに大きく依存した政府改革を強力に推し進めた結果、それぞれの政府組織を越えて多様性に富み、異質を柔軟に組み込んでいくダイナミックなネットワーク・ガバナンス(機関間の協力)が始まった。「仮想国家」とは、そのようにして独立の

政府機関相互と官民のネットワーク化が進み、外見上シームレスに組織化されていく政府のことである。

そもそも国家の基本的権能は、情報の収集と管理・伝達にある。国家の基本的な性格も、国家が基礎とする情報の管理および処理・伝達方式によっても決定される(議院内閣制や大統領制など)。ITの政府組織への導入は、だからこそ伝統的な「政府」という制度を根本的に変える契機になりうるのだが、現実には既存の制度・組織が新たな技術の採用、設計、利用について大きな影響力を持っている。それを著者は「情報技術の演出(enactment)」と呼び、実際のケースに対して示唆に富んだ分析を加えている。

『IT vs 放送 次世代メディアビジネスの攻防 変わる放送、ネット連携の行方』

放送メディアは、どのように変貌しようとしているのか
さまざまな角度から考察し、図解して解説

森山 和道(サイエンスライター)

放送と通信は技術的には既に融合している。だが著作権等処理の問題があり、ビジネスレベルでの連携・融合はなかなか難しい。受け手側を見ても、3mのメディアであるテレビと30cmのメディアであるPCとの違いは大きい。

いっぽう、ケータイ向けの1セグ放送が2006年春に始まること、2011年に地上アナログが停波することは決まっている。そんななか、NHKは立て続けの不祥事で受信料不払い問題を抱え、民放では買収事件やHDDレコーダーによるCM飛ばし問題が発生している。放送業界は根本的な部分で問題を抱えている。

本書は、変化を目前にした放送メディアの将来についてさまざまな面から考察

した一冊だ。米国メディアビジネスとの違いやBBCの先進的な取り組み、新しいコンテンツ制作模索の現状、CATVのありようや、ベンチャー企業による面白い取り組みなどが紹介されている。書籍本文の内容は各ページで図解されていて、時間がない読者は図だけを見ただけでも内容を理解できるように工夫されている。取りあえずざっと放送を取り巻く状況を把握するには便利な一冊だし、著者の指摘も納得できる。

だが本書を通読しても、今後具体的にどうすべきかは分からない。果たして動画配信が本当に放送と通信の融合のキラーアプリなのか? そこから考えたほうが良いようにも思うのだが。



西正 著
ISBN : 4-8222-0897-4
定価 : 本体 1,900 円 + 税
日経BP社

本でしか得られない知識がある。
今月の、お勧め、お役立ち、元気になる書籍。

『ブログ・ジャーナリズム 300万人のメディア』

誰もが容易に情報発信できるブログの仕組みは
既存のジャーナリズムを脅かす力になり得るのか

山川 健(ジャーナリスト)



湯川 鶴章、高田 昌幸、藤代 裕之 著
ISBN : 4-903214-00-1
定価 : 本体 1,500 円 + 税
野良舎

2005年の新語・流行語大賞のトップテンに「ブログ」が入った。総務省の統計では2005年3月のブログ利用者は335万人で、2007年には800万人になると予想。急速に普及するブログは、ジャーナリズムの新しいツールとして注目されている。

本書はこうした状況を背景に、通信社やブロック紙に勤務する一方で、あるいは最近まで地方紙に勤めながら、それぞれ個人でブログを開設している3人のブロガーが、ブログによるジャーナリズムの可能性を語り合った対談集である。

従来のウェブと比べ、格段に簡単になったブログによる記事公開の仕組みで、誰もがジャーナリストになれ、議論する場を提供できる。3人はそこに既存

メディアを脅かす潜在力を感じている。

だが3人それぞれ微妙にスタンスの違いがあり、議論を戦わせる場面も多い。それだけ、ブログとジャーナリズムの関係が一筋縄ではないことを表している。

組織の記者が取材で知り得た情報を勤務するメディアではなく、自身のブログに書くことの是非、悪意ある批判による「炎上」など、問題は山積している。

ジャーナリズム以前の問題だが、会社の内情や上司の悪口をブログに書いて、退職した全国紙記者の例もある。

対談であるため、一定の結論が導き出されている訳ではない。しかし対談は、冷静な現状分析と、ブログの今後を示唆する機知に富んだ発言であふれている。

『入門 Ajax』

Web 2.0 的テクノロジーとして脚光を浴びつつある
Ajax の利用法をサンプルプログラムを多用して解説

斉藤 彰男(編集者、SE)

Ajax(Asynchronous JavaScript + XML)は、ウェブの表示画面を部分的に再描画するテクノロジーである。たとえば Google Maps では、地図上のコントロールボタンをクリックすることで、スムーズに上下左右にスクロールさせたり、拡大 / 縮小を実現するのに利用されている。

これまで、このような機能は Flash や Java アプレットを用いないと実現できなかったが、Ajax ではブラウザの機能だけで実現できることから、最近、とみに脚光を浴びつつある。

本書は、その Ajax を利用したウェブアプリケーションを開発する際に必要なプログラミングテクニックを一冊にまとめた解説書である。

具体的な内容としては、キーテクノロジーである「XMLHttpRequest」の解説とリファレンス、Perl や PHP によるサーバー側のプログラミング、JavaScript によるユーザーイベントの捕捉とサーバーへの送信、ダイナミック HTML によるイフェクト処理、XML データの処理など、多岐にわたっている。また、Ajax アプリケーションの代表ともいえる Google Maps の API を利用したプログラミングについても多くのページを割いて解説されている。

本書では、全般にわたってサンプルプログラムと実行時の画面を見せる形式で書かれているので、実際にコーディングしながら理解を深めていくことができるだろう。



高橋 登史朗 著
ISBN : 4-7973-3264-6
定価 : 本体 2,380 円 + 税
ソフトバンク クリエイティブ



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp